



高知県立坂本龍馬記念館
The Sakamoto Ryoma Memorial Museum



海援隊旗(二色きの旗)

ryoma@ryoma-kinenkan.jp

一 碧 IPPEKI BANKEI 万 頃

人を乗せる「馬」。物を運ぶ「馬」。
龍馬の「馬」。干支の「午」・・・？
本年は「午」年、そして60年に
一度の「丙午」の年です。そんな
「ウマ」から派生した企画展を当館
で開催いたします。

龍「馬」が生きた幕末の時代、運
びの達人である「馬」が活躍しまし
た。時代の流れにより遠くまで移動
しなければならなくなった人々が増
え、その際に「馬」が使われたため
です。様々な立場の人が日本全国を
往来するようになり、お殿様や天皇
など位の高い人が移動する時の大行
列の中にも、「馬」が見られました。

その中で、「馬」を率いて大移動を
した「丙午」生まれの3人の偉人が
います。一人は、土佐で最後の藩主
を務めた山内豊範。もう一人は、天
皇の娘でありながら將軍の妻として
江戸へ下った皇女の和宮。そして、
激動の時代に若くして將軍となった
十四代將軍の徳川家茂です。

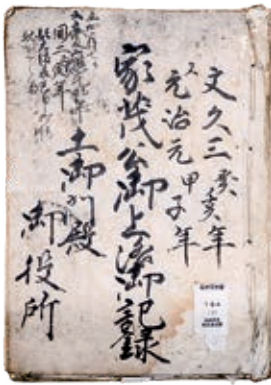
本展では、今から180年前に生
まれた、この「丙午」生まれの3人
にまつわる行列を紹介し、当時の日
記や書状、工芸品や染織品などの
様々な資料からその背景や人々の想

「幕末行列―光と影の世界―」展 会期…令和8年7月4日(土)～令和8年8月31日(月)

いをたどり、行列を彩る壮麗な光の
側面と、苦難が垣間見える影の側面
の両面に迫ります。

さて、本展は、県内外8つの機関
から資料をお借りし、これに当館所
蔵の資料を加え、①豊範の参勤交代
②和宮の降嫁、③家茂の上洛につい
てより深く知っていただける展示と
なっております。見どころは、すべ
て〴〵と言いたいところですが、中
でも注目いただきたいのは、当館で初
展示となる重要文化財の岩倉具視関
係文書や、和宮の直筆書状と所有品
です。どれも見応えと読み応えがあ
る資料で、前期と後期で異なる資料
が展示室内に並びますので、ぜひ何
度も足をお運びください。

このほか、土佐藩のお殿様の参勤
中や江戸滞在中の内実と、家茂の上
洛時に発生した公家内でのいさかい
や、將軍を迎え入れる京都での様子



「家茂公御上洛御記録」

京都府立京都学・歴史館所蔵

がわかる資料などを紹介することで、
従来ではあまり知られてこなかった
事実を皆さまに知っていただける内
容としております。

豊範が参勤のために高知を出発し
た文久2(1862)年6月28日は、
現在の暦に直すと7月末ごろです。
ちょうどその期間を過ぎ、真夏の暑
い時期に高知で開催する本展。当時
は今ほどの猛暑ではなかったかもし
れませんが、この時期の高知の蒸し
暑さを感じつつ、涼しい展示室内で
若き3人の偉人に想いを馳せてみて
ください。

上村 香乃

○講演会情報(定員70名、先着順、聴講無料)

- ①記念講演会 7月11日(土) 13:30～15:00
藤本仁文氏(京都府立大学文学部教授)
「宝暦―天明期・幕末期における参勤交代
の変質―江戸から京都へ―」
- ②連続講演会 8月23日(日) 13:30～15:00
徳川家広氏(公益財団法人徳川記念財団
理事長、徳川宗家第十九代当主)
「皇女和宮と幕末の日本」



「久世広周書状写別紙」

※重要文化財・前期のみ展示
京都市歴史資料館所蔵

「武家社会における名前」展 ふりかえり

「坂本龍馬紀直柔」——京都霊山にある坂本龍馬の墓碑に刻まれた彼の「名前」である。企画展をご覧になった方には、「紀」が「本姓」、「直柔」が「諱（実名）」であること、それらは「苗字」（坂本）や「通称」（龍馬）と比較して、成り立ちや社会における機能が異なっていたことを、ご理解いただけたのではないだろうか。

本企画展は、龍馬や土佐藩主・藩士の「名前」を切り口に江戸時代の武家社会について考える、という少々マニアックな展示であった。前近代社会における名前の構成要素を概説すること、「名前」が主従制や世襲制という、武家社会を特徴づけるシステムと密接に関わっていたことを示すこと、明治新政府による名前をめぐる改革にも触れつつ、現代に繋がる「氏名」誕生への流れを示すこと、以上のことを意識して展示を組み立てた。複雑で分かりづらい内容を如何に簡明に展示するか、最後まで試行錯誤の繰り返しだった。

開幕日の展示解説にご参加いた

だいたの方の中には、古代の「名前」を専門とする関西在住の研究者の方もいらっしやった。展示解説を目当てにご来館くださったという。また、ご先祖が土佐出身である北海道在住の方から、「先祖の名前に興味があり、もう少し早く知っていたらいい」というお電話をいただいたりもした。今回の展示が、これまで当館にあまり馴染みがなかった方々に当館を知っていただき、実際に足を運んでいただく契機にもなったのではないだろうか。

六月二〇日（土）の記念講演会では、「名前」に関する多数の著作を発表されている尾脇秀和先生（京都華頂大学准教授）に、「近世武士たちの名前——近世後期の人名常識——」と題してご講演いただくこととした。本稿は講演会前の五月下旬に執筆しているが、本日時点で定員七〇名のお申し込みをいただいている。当初の私の想像以上に、「武士の名前」というトピックに関心をもっていただけた方が多かったようだ。小難しく、華やかさがあるとは言えないながらも、従来の展示であまり扱われることがなかったテーマ設定

によって歴史の内幕を紹介できたことで、一定の意義のある企画展になったのではないかと感じている。

ところで、今年の大河ドラマの主人公「豊臣秀長」は、「羽柴秀長」と呼称するのが正しいという学説がある（「豊臣」は本姓、「羽柴」は苗字）。また、彼は主君

の想い、また自分自身のことを振り返るきっかけになるに違いない。今回の企画展が皆さんにとって、様々な学びや気づきのタネを得る出発点となれば、これに勝る喜びはないと感じている。

安岡 達仁

織田信長の死後に諱を「長秀」から「秀長」に改めている（「信長」の「長」の字を後ろにし、「秀吉」の「秀」を前にしたのだ）。このように名前という視点で深掘りしていくと、秀長は興味深い人物である。はたまた読者の皆さんご自身の名前（「氏」と「名」）にも、それぞれ由来があるはずだ。それらを知ることや命名した親



展示室の様子

2025年度の 記念企画を振り返って

昨年は、坂本龍馬生誕190年と武市半平太没後160年という記念の年でありました。当館ではこの節目の折にそれぞれ「龍馬の評伝」と「半平太と京都」をテーマとする企画展を主催しました。

『龍馬の評伝展』では、陸奥宗光や板垣退助、佐々木高行ら龍馬を巡る20人以上の先人たちの龍馬を思い起こした人物評をパネルで紹介し、併せて先人ゆかりの品々を展示しました。先人らは異口同音に、大志家や、知略家、維新の豪傑といった評伝を残しています。

『半平太と京都展』では、龍馬が勝海舟の門下生であった頃、武市半平太が土佐藩京都藩邸の要職にあつて、土佐藩の尊王攘夷のオピニオンリーダーとして京都で行った政治活動に焦点を当て、妻や姉に宛てた直筆の手紙や皇族から拝領した三徳など33点の展示を通して、当時の足跡や立場と心境の移ろいを紹介しました。

数多くの寄贈や寄託の品々を収蔵した年でもありました。大阪の元教員でコレクターの故柳内良一氏のご家族から、同氏が蒐集された幕末の錦絵や新撰組幹部の回顧録、小松帯刀の書状など3,300点余りの維新史料を寄贈いただきました。

加えて、郷土坂本家10代目をはじめ一族から、同家が承継されてきた勝海舟や土方久元が龍馬を偲んだ掛け軸や、龍馬や中岡慎太郎の肖像画、西郷隆盛や木戸孝允、谷干城らの書など、700点余

りの秘蔵史料を寄託いただきました。

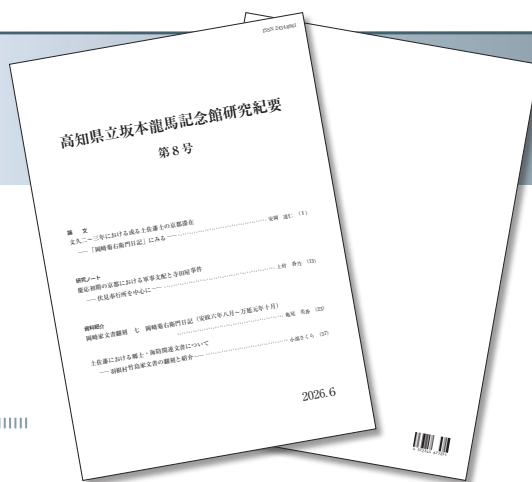
このたびの寄贈と寄託品の収蔵を記念し、下半期において「両家の篤志の中から、『柳内良一コレクション展』では29点、『郷土坂本家の秘蔵展』では36点を厳選し、初公開となる企画展を主催しました。おかげさまで当館の収蔵資料数は、これまでのおよそ2,200点から6,200点へと大幅に増幅することができました。

このほか、190年記念の「龍馬へ贈る手紙」という、来館者の思いや抱負などを龍馬宛てのポストカードに綴る企画には、493通ものご応募をいただきましたし、若手俳優の龍馬役のナレーションで、龍馬ゆかりの展示品を土佐弁で紹介する「土佐弁特別音声ガイド」の貸出式企画には、1,528人の方々のご利用をいただくことができました。こうした一連の記念企画をはじめ、2025年度における当館の取り組みを通じて、幅広い層の皆様に参加していただけたことを、とても感謝しております。

来年1月には「ジョン万次郎生誕200年」、9月と11月にはそれぞれ、「西郷隆盛没後150年」、「坂本龍馬没後160年」と、幕末史の周年が続きます。今後とも、これらのトレンドを契機とする記念企画で、幕末史のエッセンスと、その息吹や内幕の発信に注力してまいりますので、期待していただけますと幸いです。

「高知県立坂本龍馬記念館研究紀要」 第8号発行のご案内

当館学芸員等の研究成果をまとめた「研究紀要」の第8号を発行いたしました。過去のものを含めて、ミュージアムショップにて販売しております。気になる論考がございましたら、是非お買い求めください。



論文

文久二～三年における或る土佐藩士の京都滞在―「岡崎菊右衛門日記」にみる― …… 安岡 達仁

研究ノート

慶応初期の京都における軍事支配と寺田屋事件―伏見奉行所を中心に― …… 上村 香乃

資料紹介

岡崎家文書翻刻 七 岡崎菊右衛門日記（安政六年八月～万延元年十月） …… 亀尾 美香
土佐藩における郷土・海防関連文書について―羽根村竹島家文書の翻刻と紹介― …… 小部さくら

「坂本龍馬の生涯と幕末」 音声ガイドサービスのご紹介

外国語の音声ガイドをリニューアルしました！

常設展示室では、外国語対応の音声ガイドサービスを用意しています。この度、海外のお客様により伝わりやすくなるように内容を一新し、5月から英語版の貸出をスタートしました！龍馬とナレーターの2人が語り合いながら、展示をとおして龍馬の生涯を分かりやすくとどるガイドサービスです。物語性のあるナレーションで、幕末の世界がぐっと身近に感じていただけますし、本館の展示にも対応して、館内全体を音声でお楽しみいただけます。観光で来られている外国人の方はもちろん、高知にお住まいで歴史を学びたい外国人の方や、英語を学んでいる日本人の方など、どなたでもご利用いただけます。韓国語・中国語版も、順次リリースする予定です。



「土佐弁特別音声ガイド」好評につき、 期間限定で復活！

坂本龍馬生誕190年を記念して、令和7年度に実施した土佐弁特別音声ガイド。ご好評につき、今年度も期間限定で復活することになりました！常設展示室「坂本龍馬の生涯と幕末」の展示資料から厳選した資料を、龍馬の目線で紹介します。ナレーションは、俳優・田村心さんに担当いただきました。まるで龍馬が隣にいて解説をしてくれるような気持ちで展示をご覧ください。

土佐弁特別音声ガイドは令和8年12月31日までの、期間限定での貸出企画です。ご来館の際は是非ご利用ください！

竹田 綾

龍馬の手紙

30

当時他国二骨おり候
人ニハなんぼあほふ
と云んでも、お国の
並々の人の及不でハ
これなく

篆刻・陶芸・絵画など、多様な芸術分野で活躍した北大路魯山人。美食家としての側面も併せ持つ魯山人は、著書『鮎の名所』の中で、「井の中の蛙かわずで世界はこれだけだと思ってしまう、いつまでたっても、ものの真価はつかめないのである。」とし、例として以下のように語っている。

土佐のかつおのたたきなどは、もっとも世間的に有名なものとしてひとびとの耳に入っているが、実際はたいしたことはない。なぜかといえば、土佐という海に面した国は料理が発達していないし、贅沢を知らないひとが多いからで

ある。

土佐の鰹を酷評した文章であるが、一つの場所に留まるだけでは真価はつかめないという考えは、龍馬にも共通する。慶応三年（一八六七）六月二四日に認められた龍馬の書簡からは、その考え方が滲み出ている。

同書簡の内容は、大半が坂本清次郎の批判で埋められている。

清次郎は郷土坂本家に婿養子として入った人物である。ゆくゆくは家督を相続する予定となっていたが、慶応三年五月に脱藩してしまう。脱藩した清次郎は長崎にいた龍馬の元を訪れた。

龍馬は清次郎と会話をするうちに、清次郎のことを「何もをもわくのなき人」（何も思惑の無い人）と認識したように、同書簡において「御蔵のにわとり」（卵を産めずに捨てられた鶏）、「おくればへのまうり」（遅れ生えの真瓜）などに喩えている。ただし、それでも土佐の役人よりかは良いと判断したようで、「他国二骨おり候人ニハなんぼあふと云人でも、お国の並々の人の及所でハこれなく」と、他藩で苦労している人はどれほどのあほうであったとしても土佐にいる普通の人の及ぶところではないと語っている。視野を広げることの重要性を日々感じていたのだろう。

小部 さくら

龍馬館の あの日 あの時 あの時間



龍馬館の歴史や普段見ることがない龍馬館の一面を写真とともにご紹介するコーナーです。No.8

■ 歴史を未来につなぐ新館オープン

その日は少し肌寒い朝だった。桜の季節が過ぎ、新緑の美しい季節へ変わる頃、記念館も大きく変わろうとしていた。

私にとってのあの日あの頃は、当館がグランドオープンした平成30年4月21日である。施設改修などのため、約1年間の休館を経て、展示室が大幅に拡充し、貴重な史料や映像で、龍馬の生涯についてより詳しく学ぶことができるようになった。

また同日は、グランドオープンとともに高知県観光キャンペーン「志国高知 幕末維新博」第2幕の開幕セレモニーが当館南側で行われることになり、ゲストが登場し、イベントが行われ、高知新港発着で「咸臨丸」を復元した船のミニクルーズもあった。

当日の朝、受付業務を担当している私は、開館に向けて慌ただしく準備する周囲の様



子を横目に、ご来賓の方々によるオープニングのテープカットに向けての準備を入念に行い、静かに心を落ち着かせようとしていた。テープカットの時間が近づくと新館のピロティにはたくさんのお客様が並んでおり、緊張感が少しずつ高まるのを感じていた。

その後、華々しくグランドオープンを迎え、新館に入ると木の香りがする温かみのある文化的な空間に新しい時が流れはじめた。その先は多忙な一日であったが、多くのお客様にご来館いただき無事に閉館し、お祝いいただいた花々の匂いがする廊下で職員と交わした労いの言葉、ほっとした笑顔を今も覚えている。

あの日から八年の月日が経ち、新館の新しい匂い、受付に立つ緊張感は、あの頃よりは落ち着いてきたが、この新館とともに自身も成長を重ねながら、これからもお客様一人ひとりに誠実な対応を心がけたいと思っている。また、坂本龍馬の功績や魅力を微力ながら多くの人に伝える役目を果たせればと考えている。

松本 友

NHK大河ドラマ 「ジョン・マン」について

三浦 夏樹

今年の4月9日、高知県にとって大変嬉しいニュースが発表された。2028年のNHK大河ドラマが「ジョン・マン」に決まったというビッグニュースだ。

当館は2018年に新館を増設し、常設展示室と企画展示室に加え、ジョン万次郎展示室を備えている。龍馬記念館でありながら、一室をジョン万次郎展示室とした理由の第一は、画師・河田小龍が作った万次郎らの漂流記『漂異紀略』を2種類所蔵しているからである。なかでも、小龍が最初に作った草稿と思われる冊子は、極めて貴重な史料である。第二の理由は、新館増設が決まった時の館長である森健志郎氏が、万次郎に魅せられていたからである。万次郎は、漂流して運良くアメリカ人に助けてもらい、英語が話せるようになって帰ってきた、という単純な人ではない。人生そのものがドラマのようにワクワクするような冒険譚であり、そうした人生を聡明な頭脳と不屈の精神力、的確な判断力、魅力ある人間性、日本の開国に尽力したいという熱い想いをもって乗り越えていった。知れば知るほど魅力的な人で、私も万次郎に魅せられている一人である。

大河ドラマ「ジョン・マン」の発表以降、早速、万次郎をテーマとした講演の依頼が複数あった。講演の中で私は、万次郎の二つの言葉を必ず紹介している。「御勘定奉行札問書」に書かれている言葉で、この史料は、幕府に呼び出された万次郎が川路聖謨や江川英龍の質問に答えたものである。

①「在留中彼国鯨船乗組、御国近海大東洋ハ勿論南北太平洋、大西洋、大南海等度々通航いたし、其地の測量ハ勿論帆遣ひ方等委敷習覚居候間、大船さへ有之候へハ、何れ之国へも航海相成候由」

（意訳）「世界中の海を航海したことがあり測量や操船技術に習熟しており、大きな船さえ与えてくれれば、世界中どここの国へも行けます」

②「彼国在留或ハ鯨船乗組漁事ニ出、都合十一ヶ年の間彼国人と相交り、且書籍文字をも学び候間、彼国ものの江応対又ハ通辯等之儀、如何様入組候事ニ而も相辨候由」

（意訳）「米国や捕鯨船で計11年の間、米国人と交流し、書物で文字を学びましたので、米国人との応対や通訳は、どのように入り組んだ内容であっても理解することができます」

当時の日本人は、天文を見て船の位置を割り出して航海する「天文航法」を身につけていないため、陸を見ながら航海するのが常で、外洋航海はできない。したがって、①の言葉は、万次郎だからこそ言える言葉である。また11年間、海外で暮らしたとはいえ、国同士の交渉の場に出

て「どんなに入り組んだ内容であっても理解できる」というのも余程の自信と覚悟がある言葉である。この二つは、日本の開国のために大いに尽力したい、という熱意溢れるもので、何度読んでも心が震える言葉である。おそらく、日本とアメリカを繋ぐ役目において、自分以上

に相応しい人物はいない、という使命感から出た言葉だろう。大河ドラマでは万次郎の格好良い姿がたくさん描かれると思うが、個人的には、この場面に期待している。



『漂異紀略』より「ジョンハウランド号」

ミュージアムショップ便り

本館出口に位置するミュージアムショップでは、龍馬に関する様々なグッズをはじめ、年間を通して開催される企画展関連の商品等を揃えて皆様をお待ちしております。

★「龍馬Tシャツ」新色が追加されました！

記念館オリジナルTシャツは、高い人気を誇っている定番商品で、ここでしか買えない限定品です。例年は入荷数も限られており、売り切れの期間もありご迷惑をおかけしておりましたが、今年は入荷数を増やし、新色も加え10色展開となり、お客様からご要望の多かったXXLサイズも遂に登場。ブラックのみですが取り扱いを始めました。

価格は1枚2,800円（税込）。生地は5.6オンスの綿100%。サイズは、各色S、M、L、XLの4サイズ。ブラックのみXXLもあり5サイズです。タグは、「高知県立坂本龍馬記念館」、左袖には当館のロゴマークの刺繍を逃さず、デザインは2パターンあります。

前面プリントの「龍馬と船」は、ブラック、パーガンディ、インディゴ〈新色〉、ダークブラウン〈新色〉、パープル〈新色〉の5色です。



前面プリントTシャツ



バックプリントTシャツ

バックプリントの「龍馬と地図」は、トロピカルピンク、チャコール、ライトブルー、アイビーグリーン〈新色〉、アッシュ〈新色〉の5色です。

私は、毎年Tシャツが入荷すると、何色が購入し実際ショップで着用していますが、今年は、ダークブラウンとアッシュを購入しました。色、サイズによっては、完売となる場合もございますが、当館にお越しの際には、ぜひ、ご覧になってみてください。

渡辺 曜子

■「海見える・ぎゃうりい」

当館の本館2階「海見える・ぎゃうりい」では、龍馬よさこいイラスト展を3月20日～5月6日まで開催していました。

龍馬よさこいは、京都霊山護国神社の境内「龍馬演舞場」を中心に開催されるよさこい祭りです。龍馬の命日である11月15日に合わせて、毎年11月に開催されています。

龍馬よさこいでは、前年度の参加チームから「モデルチーム」が選ばれ、モデルチームにはイラストレーターの中川学氏によりイラストが描かれます。イラストは龍馬よさこいのポスターやパンフレットに使用されており、参加者に祭りの魅力を伝える役割を果たしています。

中川氏は京都府瑞泉寺の住職で、僧務のかたわらイラストレーターとして数々の書籍の挿絵を手掛けている方です。2005年には今世界で注目すべきイラストレーターを紹介するドイツの雑誌「ILLUSTRATION NOW」に選ばれ、2013年には『繪草紙龍潭譚』・『絵本化鳥』でアジアデザイン賞を受賞されました。

中川氏が龍馬よさこいのイラストを描くようになったきっかけは、2009年に出版されたらくたび文庫『幕末龍馬の京都案内』だそうです。同書の挿絵を制作することとなった中川氏は、京都霊山護国神社の木村宮司と知り合い、その後、龍馬よさこいのイラストを手掛けるようになりました。

本展では、2012年・2014年～2019年・2023年～2025年に選ばれた、計10組のモデルチームのイラストが壁沿いにズラリと並びました。中川氏により描かれたイラストは、切り絵風で落ち着いた絵柄でありながら、大胆で躍動感のある構図がとられており、よさこいの活気や熱量を感じさせるものばかりです。



龍馬よさこいのイラストをお借りできたおかげで、海見える・ぎゃうりいもパツと華やいだように思えます。京都から離れた高知の地でも、龍馬よさこいの空気を感じ取れる機会となったのではないのでしょうか。

小部 さくら

入館状況

2026年6月15日現在

(1991年11月15日 開館以来 34年213日)

◆入館者数 4,900,814人

■リニューアルオープン(2018年4月21日)以来 964,054人

編集後記

「一碧万頃」とは、見渡す限りの青々とした海や湖の様子を指す四字熟語です。当館の屋上からも雄大な太平洋が一望できますが、やはり初夏が一番映えて見えます。

さて、7月4日からは新たな企画展「幕末行列―光と影の世界―」が始まります。古文書はもとより、和宮所縁の道具類や小袖・打掛など、見所が目白押しな展示です。皆様のご来館をお待ちしております。(や)

館だより“飛 騰”第138号(年4回発行)表紙題字:書家 沢田 明子氏

発行日 2026(令和8)年7月1日
発行 公益財団法人高知県文化財団
高知県立坂本龍馬記念館

〒781-0262 高知市浦戸城山830
TEL (088)841-0001 FAX (088)841-0015
<https://ryoma-kinenkan.jp>
「飛騰」に対するご意見ご感想などお寄せください

開館時間 9:00～17:00 年中無休
入館料 企画展開催時 900円
その他の期間(常設展示室開室時を含む) 500円
高校生以下無料
高知県・高知市長寿手帳所持者・療育手帳・身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)は無料



「飛騰」は郵送料のみのご負担でお届けいたします。購読希望の方は140円切手をご希望回数(4回分まで)お送りください。
〒781-0262 高知市浦戸城山830 高知県立坂本龍馬記念館「飛騰」購読係 まで